

集会宣言(案)

私たちは、いま、歴史の岐路にたっています。世界の人口は70億人を超え、9億人が飢餓と貧困に苦しんでいる中で、世界的な食料需給のひっ迫が現実化しており、国際社会は将来的な食料危機に直面しています。

また、わが国は東日本大震災と福島原発事故による未曾有の大惨事に、真正面から向き合っていかなければならない状況にあります。

このような中、政府は、わが国の地域経済や社会、国のかたちを一変させるTPPへの交渉参加を、十分な情報開示や国民的な議論、交渉に対する国家戦略の明確化もないまま拙速に行おうとしています。

TPP交渉参加に反対する声は、全国に着実に広がり、大きなうねりとなっています。8割の都道府県・市町村議会がTPP交渉参加に慎重・反対の決議を行うなど、地方の声は圧倒的にTPP反対であり、政府は、交渉参加に前のめりになるのではなく、こうした地方の声を真摯に受け止めるべきです。

地域経済の振興と雇用の安定、農林水産業の振興、食の安全性確保、医療制度の充実は、国民生活の根幹にかかわる問題です。政府は、TPPが与える様々な影響について十分な情報開示を行い、地方の農林水産業者、商工業者、医療関係者、消費者、労働者など国民各層の意見をしっかり聞いた上で、国民的議論を行うべきであり、私たちは拙速なTPP交渉参加表明に反対します。

以上、宣言します。

平成24年4月27日

拙速なTPP交渉参加表明に反対する道民集会